

《報告》

山口県山口市で採集したイカタケ

岩本みさき<sup>1)</sup>・川野敬介<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>豊田ホタルの里ミュージアム・サポーター会員, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

<sup>2)</sup>豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

はじめに

イカタケ *Lysurus arachnoideus* (E. Fisch.) Triev.-Per. & Hosaka (スッポンタケ目: ツマミタケ科) は, 成熟した子実体がイソギンチャクあるいはイカのような形状をした菌(きのこ)類で, 主に熱帯地方に分布する(西・黒江, 2013). 全国的に稀な種で(池田, 1996), 山口県のきのこ相を報告した川口(2016)では県内から26目99科(2科は未確定)344属1044種(未記載種や未確定種も含む)を報告しているが, その中に本種の記録はない.

そこで, 本報告では山口県からはじめて確認されたと思われるイカタケについて採集記録と若干の生育状況を報告する.

生息地の環境と確認状況

イカタケは山口市阿東町地福下で, 2023年6月3日に古いもみ殻の堆積地に群生しているのを確認した(図1). この堆積地は過去にも何度も観察しており, 他のきのこ類が発生しているのは観察していたが, 本種を確認したのは今回がはじめてであった. 発生を確認してから11月まで毎月発生の有無を観察したが, 7月以降は草に覆われて本種が発生することはなかった.

なお, 同年6月1日に岩本の母と祖母が約200m離れたところで, 動物が死んだような今までに感じたことのない強烈な臭いを感じたが, 確認するのも怖く, すぐに帰ったと話していた.

また, このもみ殻の堆積地の所有者によればイカタケは見たことがないが, 過去に周辺が臭いことがあったと言っており, 西・黒江(2013)によれば, 近づくと魚が腐ったような臭いがあたり一面に漂うと記していることから, これまでも本種がこの周辺で発生していた可能性は高いと思われた.

イカタケの成長の状況

本種を確認した6月3日に幼菌をもみ殻ごと持ち帰り, タイムラプスでその成長を撮影した(図2). 午後9時ごろから腕が突き出てきて, 午後11時45分ごろから腕が開き始め, 午前1時には腕は開いていた. グレバは開き始めは粘土のようでツヤや粘りはなく, 腕が開き時間が経つにつれてツヤが増し粘液状になっていった. 臭いも時間が経つにつれ強くなった. 午前5時には全部で3つのイカタケが開き, 家中がイカタケの臭いで満たされた.

まとめ

初めて本種を確認したときは, イカが地面に突き刺さっているように見え, しかも大量に生えていたため非常に気持ち悪いと思った. しかし, 幼菌を育てたり, 観察したりするにつれて, 興味深いことがわかつ

た。イカタケのほかにも変わった形のきのこは多いが、なぜイカタケには腕がたくさんあるのか不思議に思った。

本種を確認したもみ殻の堆積地は今後も農作業で出たごみや不要物を捨てる予定であり、環境の変化が予想されたので、11月に許可を得てもみ殻の一部を約200m離れた岩本の畑に移した。今後は両方の場所で本種の観察を継続して続けたい。



図1. 山口市阿東町地福下で確認したイカタケの発生状況。  
1-2. 群生状態； 3. 幼菌。

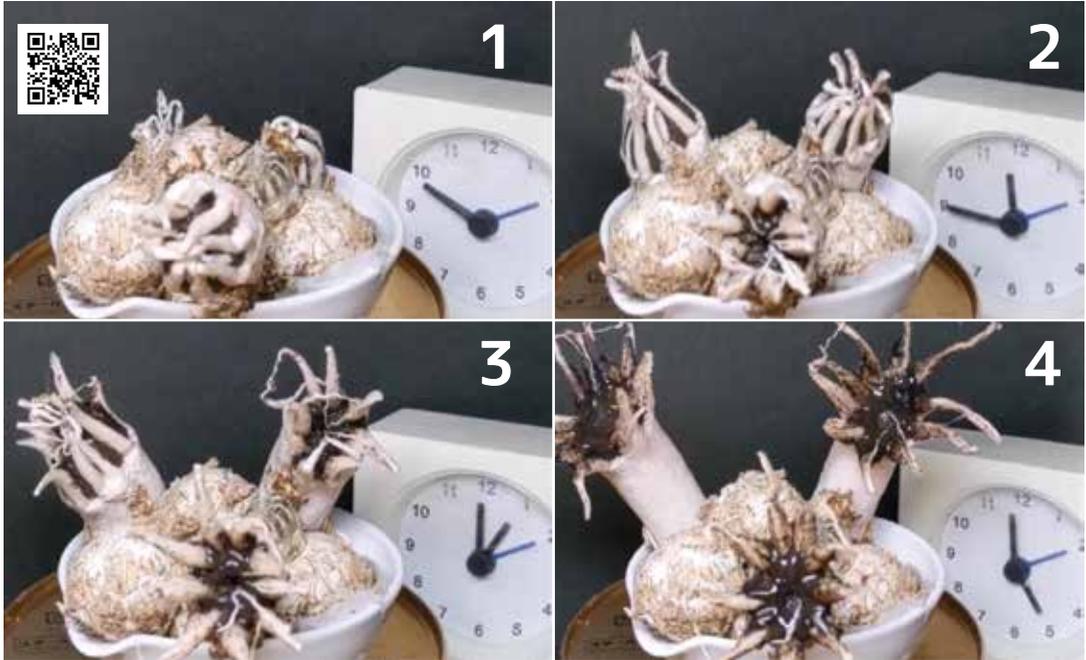


図2. 山口市阿東町地福下で採集したイカタケの成長過程

1. 観察・撮影開始 (22:49) ※QRコードは関連動画 (YouTube, 動画URL: [https://youtu.be/na\\_bBM-R19JM](https://youtu.be/na_bBM-R19JM)) ; 2. 腕が開き始めた (23:45) ; 3. 腕が開いた (1:00) ; 4. 3つすべて腕が開いた (5:00) .

#### 引用文献

池田良幸(1996)「石川のきのこ図鑑」190pp.,北國新聞社出版局, 金沢.

川口泰史 (2016) 山口県産きのこ類の採集・確認目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (8): 21-163.

西 俊昭・黒江修一 (2013) 鹿児島県霧島市で初めて発見されたイカタケ *Aseroe arachnoidea* Fisch. の記録. *Nature of Kagoshima*, **39**: 207-209.